

平成22年度

鳥取大学附属中学校卒業式

祝辞

名残の雪が、卒業生の皆さんの、ご卒業を惜しんでいるかのように、消え残っています。今、まさに義務教育の課程を修了し、次ぎのステージに登ろうとする、栄えある鳥取大学附属中学校第63回卒業生の皆さん、そしてご参列のご家族・関係者の方々にもここからお慶びを申し上げます。

晴れの卒業式を迎えた今、皆さんの胸の内は未来への大きな希望や喜びと、別離の淋しさや感傷もあり、様々な気持ちが入り交じっていることと推察致します。

卒業という節目にあたり、皆さんの今後の発展と飛躍を祈って、二つのことを励ましの言葉として贈りたいと思います。

その一つは、「大志を抱け」であります。ウィリアム・スミス・クラークが札幌農学校を離れる時、「Boys, be ambitious (少年よ、大志を抱け)」と発したことはよく知られています。このことばの後に

「それは金銭に対してでも、自己の利益に対してでもなく、また世の人間が名声と呼ぶあのむなしいものに対してでもない。人間が人間として備えていなければならぬ、あらゆることをなし遂げるために大志を抱け」

と語ったといわれます。

人にはそれぞれに備わったそれぞれの個性があり、秘められた長所があると考えます。

皆さんは学校生活の中で自分探しをし、それぞれの才能を見つけたことと思います。しかし、それはほんの一部分にすぎないのであり、それに満足することなく、新たな学びや体験を求め、さらなる長所を見だし、人生の大いなる目標に向かって日々努力を重ねていただきたいということでもあります。

第二は「共に助け合って生きていく」「共生」ということでもあります。

森羅万象との共生・共存という概念は、我が国では古くから存在し、人間あるいは自己は宇宙・自然の中の一員であり、自分が大切な存在であれば、自分の隣にいる人達、自分を取りまく事物もまた全て同じく大切なのであるという考えであります。

競争社会にあって、強き者が栄えて弱者が滅び、周囲の環境に適応したものが栄え、それに反したものが衰え滅びるという「優勝劣敗」ではなく、競争はしていても互いに影響を与え合い競争相手の存在が、より互いの能力を発揮させ相互作用をもつ「競争的共存」が重要なのではないのでしょうか。

すべてのものが共生・共存してゆくためには、全てのものが自分のエゴを押さえ、それぞれが他者の立場に立ち、一定の犠牲をはらい、忍耐することが必要であります。

「共生」を実現する第一歩は、まず、自分自身を含めて一人一人の人が、かけがえのない大切な存在なのだということをしかりと認識することだと考えます。

皆さんは、これまで多くの人と出会い、めぐり会ってきたことでしょう。これからも様々な出会いがあると思います。

相手を思いやる価値ある友人関係を広めていって欲しいと思います。

めざましい科学技術の発展がある一方、地球規模での環境問題・食糧問題・エネルギー問題と、今も繰り広げられている世界平和への戦いなど、人類の生存基盤を脅かしている多くの未解決な課題を皆さんに託さねばなりません。

宇宙に浮かぶ地球号の乗組員として、自分が生活する国や地域における自然や文化を大切に、他者のために自分で出来ることを実行できる確かな人間として、歩んでほしいと願います。

本校で学び培ってきた尚徳精神のもと、鳥取大学附属中学校の卒業生であるという、自覚と誇りを忘れず将来の日本、世界を担う人材として羽ばたくことを期待します。

終わりに保護者の皆様にお祝いと共に、これまで本校にお寄せ下さいました温かなご理解と絶大なるご支援ご協力に心から感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、これからも健やかで幸多いことを祈念し、祝辞と致します。

平成23年3月8日(火)

鳥取大学附属学校部長
油野利博